

## 長期交換留学最終報告書

2019 年度長期交換留学  
韓国、木浦大學校  
文化学部 文化学科  
183106 藤原亜美

2019 年 9 月 1 日、私は高知県立大学生を代表し、提携校である韓国木浦大學校へと向かった。

私は以前から、KPOP が好きで韓国という国に曖昧ながらも興味を持っていた。そして大学入学で言語系の授業を中心に履修しているうちに、隣国である大韓民国の大衆文化、国民性、言語について強く関心を示すようになった。この 3 つが留学を決意した理由である。そして 3 月に交換留学生として選んでいただき、9 月の出発まで慣れないながらも準備を進めてきた。ここでは、交換留学をしてみてわかった衝撃を受けた日本と韓国の違いなどを述べたいと思う。

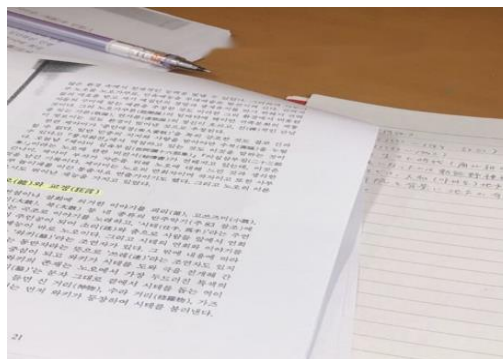
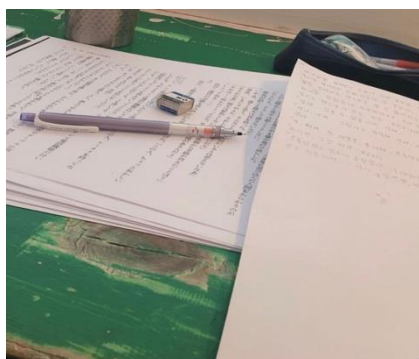
まず、日韓の文化の差異についてだ。隣同士ではあるものの、やはり違う国なので、韓国に行ってみて驚くことはたくさんあった。韓国と日本では、まず年齢の数え方が違う。日本では、自分の生まれた日が来るごとに一つ歳を取るが、韓国では一月一日に全員が一つ歳を取るの、年齢を聞く際には「○年生（○には生まれ年が入る）」と言うことが多い。学年も日本では大学 2 年生でも、韓国の学年の数え方になると大学 1 年生ということになる。続いて、日常生活における違いについてだ。私が、韓国式の生活に慣れるまで一番苦労したのは、お手洗いの時だ。日本では、使ったトイレトペーパーを便器に流すのが普通だが、韓国では学校やバスターミナルなど、昔からあるような場所には使用済トイレトペーパーは流さず、ゴミ箱に捨てるようにと指示された紙が貼ってあることがある。もちろん、すべての場所がそういう形式な訳ではないが、トイレトペーパーをゴミ箱に捨てるトイレの方が多くのように私は感じた。頭ではわかっている、やはり生まれてずっと日本にいたために慣れるまでには時間を要したと思う。次は、食事についてだ。韓国ドラマなどでよくあるように、韓国の食器は金属製で、箸とスプーンを使う。箸のことを「チョッカラ」、スプーンのことを「スッカラ」と呼ぶ。おかずやご飯をチョッカラで食べ、汁物はスッカラでいただく。また、日本とは逆に韓国では器を持ち上げて食べることはマナー違反とされているため、注意が必要である。そして韓国食は、ご飯とメインの



おかずの他に、小鉢のようなおかずが必ずいくつつついてくる。だいたいキムチなどの漬物が多いが、初めて飲食店で食事をした時、頼んでないおかずがいくつも出てきて困惑してしまっただが、これは「おまけ文化」が強く根付いている韓国ならではのと思った。スーパーマーケットやコンビニエンスストアでよく見かける「1+1」制度（一つ買えば一つついてくる）もこの一つだろう。（写真:光州バスターミナル内の飲食店、学生寮の食事）

次は学生生活にフォーカスを当ててみたいと思う。私が留学した木浦大学校では、朝9:00から昼休みを挟んで18:00まで授業時間があり、日本では「〇限目」があるが韓国は30分綴りでだいたい一つの授業が1時間半である。なので「〇限目」ではなく「〇時からの授業」ということになる。私が受講したのは日本文化を歴史と絡ませながら学習する授業と、日本文学を韓国語に翻訳するものだった。授業は当然韓国語で進められるわけだが、やはりネイティブのスピードについていくのは難しかった。しかし韓国語で日本の歴史や文化を学ぶのはとても新鮮だったし、韓国の学生の方が歴史に詳しくたりして、日本人として負けていられないとすら感じられるとても有意義な授業だった。日本人として韓国の学生たちに文化について聞いてもらえるのはとても嬉しかったし、自分が韓国文化や韓国語について教えてもらう良いきっかけにもなった。そして、韓国でも中間試験、期末試験があるわけだが、試験期間中は学生は図書館やカフェなど、外に出て勉強していることが多いようだった。大学近くのカフェは試験期間中は学生でいっぱい、私も友人や先輩と一緒に勉強するときはよくカフェに集まっていた。私は友人と教え合いながら勉強したい時はカフェ、1人で静かに勉強したい時は図書館、とその時々で勉強する場所を変えていたが、それもいい気分転換になってとても集中できたので、これからも続けていきたいと思う。留学中に受けた試験は、記述問題が多く、日本が知識量を求める試験が多いのに対し、「大切な事項を深く理解し、自分の言葉で解答を作る」ということを学習面で重要視していることがわかった。

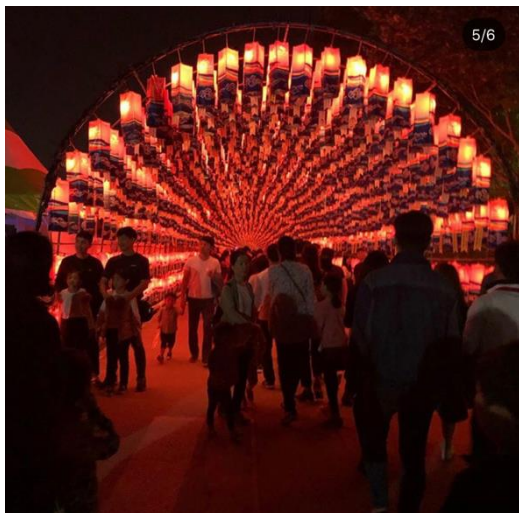
写真:カフェでの学習風景(左)、図書館での学習風景(右)



次に、私が感じた韓国の国民性について述べたいと思う。現在、日韓関係があまりいいとは言える状態ではなく、韓国に行くまでは多少の不安があった。しかし行ってみると、

テレビで見るような日本を毛嫌いする人々だけではないんだと身をもって感じる事ができた。教授や友人、先輩も優しくだったが、見知らぬ日本人である私に優しくしてくれて、私の拙い韓国語を聞き取ろうとしてくれた大学近くのお店の店員さんや、バスで話しかけてくれたご老人の方には、本当に感謝している。わたしは韓国にいる間、いろんな場所で韓国の方々の優しさに触れ、自分からも韓国語を話してみようと言う勇気が出たことが記憶に強く残っている。また、先ほども述べたが韓国ではおまけの文化が強くあり、人と人との助け合いをととても大事にしている国民性を体感することができ、日本でもあったらいいと思えるような文化であった。また、韓国の人々は思ったことを素直に意見できるように、講義中のグループワークの中で沢山の意見が飛び交っているのを見て、それぞれの意見を言い合うことの大切さを学ぶことができても何か意見を出さなければいけない、と思えていつもより深みのあるディスカッションができたと思う。もう一つ私が感じた国民性は、記念日や、お祝い事をととても大事に思っていることだ。これは日本でも言えることだが、日本の祭りといえば縁日などの庶民的で親しみのある物をイメージされやすいが、韓国は煌びやかに、豪勢に祭りをを行う。例えば、私は10月に晋州の「晋州南江流灯祭り」に行った。この祭りは、戦争で国のために命を落とした兵士たちを、灯籠流しを行って弔うために始まった灯籠流しから始まった祭りで、2000年に大規模な祭りとなった。灯籠流しの祭りなので、灯籠がメインなのだが、川に見たこともないような灯籠のオブジェが飾られており、とても壮大で綺麗な祭りで、人もとても多く屋台もあった。各作品に説明書きもあって、どんな歴史を模した作品なのかも分かりやすくなっていた。自国の歴史を伝承していくことは、難しいことではあるが、このように祭りを通して幼い子供でも楽しめるような身近なものにできるのはとても良いことだと感じた。

写真:晋州南江流灯祭り



最後に、韓国語という言語について、日本語との比較を交えながら述べていきたいと思う。

まず韓国語で使われるハングルは子音と母音で構成されている。これが日本語と似ていると言われる所以でもあるわけだが、韓国語と日本語の大きな違いは、「パッチム」だ。私たちが普段使っている日本語は、子音と母音を一つずつ合わせて一つの音で完結する。これに対し、韓国語のパッチムは日本語にはない小さな音を発音する場合である。そしてこのパッチムが次の音と連結して単語が作られるため、韓国語を知らない日本人が韓国語単語を学ぶと、表記と音が違うことに困惑してしまう。私自身も、韓国語を勉強し始めた時習った単語を聞いているはずなのにどうして違う音に聞こえるのかが不思議でたまらなく、勉強に苦しんでいた。しかし、このパッチムの法則がわかり、単語を何度も聞くうちにパッチムと次の音をリンクさせて発音しているということがわかった。韓国語には同じ発音に聞こえても少し違う、というものがいくつもあって、韓国語を話す際、この細かい発音がとても大事だということがわかった。少しの発音の違いで、全く違う意味になってしまったり、それが元で会話が円滑に進まないようなことが韓国人同士でもあると知って発音の重要性を改めて知ることができた。外国語の勉強はコツコツ地道にするしかなくて、自分が慣れていくしかないことを身をもって体験し、勉強に近道などないことを再確認できた。

今回の留学生活を通して、感じることは沢山あったがとてもいい経験になったと私自身感じている。初めての海外で、もちろん思った通りに行かないことの方が多かったし、悩んだことも多かったが、それ以上に周りの人たちが助けてくれたおかげで無事留学生活を送ることができた。交換留学生として、学部に入り講義を受けたことで、韓国人からみた日本の歴史を知ったことはとても新鮮だったし、正しい歴史を理解しようとしてくれることがよく伝わってきて、なにより学生の日本に対する熱意が強くその自主的な学習態度は目標にすべきものだと感じた。

今回はコロナウイルスのこともあり、1年前に思い描いたような、留学生活を楽しむ余裕はなかったように思えるが、それでも留学という経験を通して学んだことは多い。韓国にいかなければ出会わなかった人たちが居たり、知らなかったであろう文化などを少しでも体験できたことは、私の大学生活において経験値という面で大きな意味をもたらしたと思う。

これからの学生生活は、この経験を生かして自主的に意見を出してみたり、外国人と国際交流を積極的に図ったりすることを目標に過ごしていきたいと思っている。